

呼吸器・感染症内科学講座 【Stage 2】

1. 実習の基本方針 （目的・到達目標）

卒後初期臨床研修に必要な、呼吸器疾患や感染症に対する十分な知識と技能を習得することを目的とする。大学内および学外実習協力病院において、実際の患者を担当し、医療面接－身体診察－検査－診断－治療に至る過程を学習する。

- （１）実臨床において、適切な医療面接や身体診察を行うことができる。
- （２）胸部画像（単純 X 線や CT）所見を読影することができる。
- （３）鑑別疾患を挙げ、診断のために必要な検査計画を組み立てることができる。
- （４）得られた情報からプロブレムリストを作成し、診断や治療を考えることができる。
- （５）患者や患者家族と適切にコミュニケーションをとり、信頼関係を築くことができる。指導医とともにインフォームド・コンセントを行い、その方法について学ぶ。
- （６）他の医療者と良好な関係を形成し、チーム医療の一員として機能することができる。
- （７）担当した症例の要点を簡潔にプレゼンテーションすることができる。

2. 実習の方法 （内容・行動指針）

- （１）附属病院呼吸器・感染症内科および関連病院において臨床実習を行う。
- （２）病棟実習：入院患者を各自 1 名担当し、医療面接や身体診察を行う。指導医（担当した患者の主治医と担当医）とともに医療面接や胸部画像の読影を行い、鑑別診断を考え、今後の検査・治療方針の立案を行う。この Stage2 では、呼吸器・感染症診療の現場見学ではなく、患者の一担当医として積極的な診療への参加を必要とする。
- （３）病棟実習：担当した入院患者について毎日カルテを記載する。患者の状態を把握し、問題点を抽出、今後の検査計画を立て、治療内容の調整について指導医と討議をする。指導医は記載されたカルテの内容を確認し、診療態度とともにフィードバックを行う（形成的評価）。
- （４）外来実習：新規外来患者の医療面接、身体診察、胸部画像の読影を行い、鑑別診断を考える。診断を確定するために必要な検査計画および治療方針を立案し、その内容について指導医と討議し、外来診療における診療技術の向上を図る。
- （５）ミニレクチャー：卒後初期臨床研修に必須である呼吸器病学および感染症学の知識と理解を深めるために、ミニレクチャーに参加する。
- （６）レポート作成：病棟で受け持った患者についてのレポートを作成し、実習最終日まで提出する。症例のレポートは、患者年齢、性別、診断名、主訴、既往歴、家族歴、生活歴、現病歴、現症、検査所見、プロブレムリスト、入院経過、考察、および引用文献を記載する。毎日の評価とこのレポートを用いて、指導責任者が最終的な実習の評価を行う。

- ※ 学外実習では、受け入れ先の協力病院の指導医と学生の間で、実習内容について確認と調整を行う。指導医の人員数の問題から、大学と同等の実習内容を履行することが難しい場合もある。

～ フィリピン サンラザロ病院 での研修 ～

※COVID-19を始めとした感染症の世界的流行状況に応じて延期・中止の可能性はある。

2014年度から学外実習の一環として、フィリピンのサンラザロ病院での研修を行っている。呼吸器疾患や感染症に興味があり、将来、熱帯感染症、国際医療の領域で活躍したいという志のある学生を対象とする。研修前に語学力の確認と本研修の遂行に必要な基礎知識を習得するための特別講義を受講する必要がある。

3. 実習上の注意事項

- (1) 時間を守る、挨拶をするなどの礼儀をわきまえる。清潔な白衣を着用し、爪を短く切り、診察前後の手指の衛生的手洗いをを行い、患者に不快感を与えないようにする。
- (2) 患者に対して不用意な言動を謹み、誠実な態度で接する。病状、治療方針や予後などの質問に対しては、指導医に確認をせずに答えてはならない。
- (3) 患者の個人情報、診療記録、実習用（学生用）カルテ等、患者の許可なく漏洩することは、個人情報保護法などの処罰対象となるため十分注意する。実習後のメモや資料などの処理については、指導医に確認した上で、正しい方法で廃棄する。

4. 「医学生の実習における医行為と水準」の例示

本手引き巻頭の記載に従う。

5. 【スケジュール】

附属病院および学外実習協力病院にて2週間ずつ、計4週間の臨床実習を行う（サンラザロ病院研修はこの限りではない）。学外実習は各協力病院に2名程度の予定だが、希望に応じて変更を考慮する。ただし、人数の多い場合は希望に添えないこともある。

※プログラム確定後の変更は不可とする。

(代表者名) (担当教員名)	実習内容	学外関連病院・施設・責任者
代表者： 小宮 幸作 呼吸器・感染症内科学講座 准教授	呼吸器・感染症内科における選択実習は、「附属病院 呼吸器・感染症内科」、「学外実習協力病院」における病棟および外来実習を原則とする。実習の目的は、日常診療で遭遇する呼吸器疾患・感染症に対する知識および診療技術の獲得と呼吸器・感染症領域の救急医療への対応の修得である。	1) 大分県立病院 呼吸器内科 責任者：呼吸器内科部長 安東 優 2) 大分赤十字病院 呼吸器内科 責任者：呼吸器内科部長 畑 正広

担当教員： 吉川裕喜 横山 敦 大森翔太 首藤久之 藤島宣大	具体的な実習・指導内容 1) 附属病院 呼吸器・感染症内科 ① 附属病院呼吸器・感染症内科の病棟および外来にて、専門性の高い診療技術を指導医とペアになり実践する。 ② 日常診療で多く遭遇する疾患から希少な疾患まで、幅広く鑑別疾患を想起できるように知識の修得を図る。鑑別診断を進めるために必要な検査所見の解釈の仕方、画像所見の読影法を学習しながら、指導医とともに治療方針を組み立て、専門的な呼吸器・感染症診療を実践する。 2) 学外実習協力病院 ① 地域における第一線の医療機関にて、呼吸器・感染症領域のプライマリ・ケア実習を行う。 ② 附属病院とは異なる疾患頻度を意識して、呼吸器・感染症領域における日常診療で遭遇する頻度の高い疾患（肺炎、喘息、COPD、ARDS、肺癌、気胸、胸膜炎など）に対応する臨床力を養う。 3) サンラザロ病院研修（海外研修） 呼吸器疾患および感染症医療に興味があり、将来、熱帯感染症や国際医療領域で活躍したいという志のある学生を対象とする。定員は5名程度とし、期間は1週間、最終グループのコース内で実施する予定である。 現地での研修に先立ち、語学力の確認と本研修に必要な知識に関する講義を受ける必要がある。	3) 大分医療センター 呼吸器内科 責任者：呼吸器内科部長 大谷哲史 4) 新別府病院 呼吸器内科 責任者：呼吸器内科部長 徳永裕一 5) 厚生連鶴見病院 呼吸器内科 責任者：呼吸器内科部長 岸 建志 6) 別府医療センター 呼吸器内科 責任者：呼吸器内科部長 上野拓哉 7) サンラザロ病院（フィリピン） 責任者：感染予防医学講座 教授 小林隆志
--	---	---

学内実習

曜日	午前		午後	
月	オリエンテーション 9:00～呼吸器・感染症内科学講座 研究棟 8 階医局	病棟実習	気管支鏡実習、病棟実習	
火	朝カンファ (8:30～カンファ室)	病棟実習		病棟実習
水	朝カンファ (8:30～カンファ室)	気管支鏡実習、病棟実習		病棟実習 症例検討会 16:00～6 新病棟カンファ室
木	朝カンファ (8:30～カンファ室)	病棟実習		気管支鏡実習、病棟実習
金	朝カンファ (8:30～カンファ室)	病棟実習		病棟実習

※不定期にレクチャーが入ることがある。日時はレクチャー担当医から、その都度、代表者に連絡する。

※病棟実習については、担当患者の主治医および担当医と行動を共にし、積極的に診療に携わる。